



町長伝言板「海外見聞録」

昨年は、海外出張の機会が2度ありました。

1度目は、県町村会の研修で、オーストラリアを訪問いたしました。シドニー周辺の教育施設、農業施設および再開発による地域振興施設などを視察しましたが、教育課程の中で幼児教育の段階から一定の学力基準に満たなければ進級できないことや、雨量が少ないというリスクを水耕栽培によりクリアし、周年野菜栽培されている農業、あるいはシドニー港周辺の使用されていない倉庫を商業施設や観光施設として活用されている状況を目の当たりにすることができ、大変有意義な研修でありました。

2度目は、熊本県人ペルー移住115周年記念式典出席のため、上田健二町議会議長と総務課長の同行のもと、ペルー共和国の首都・リマ市を訪問しました。

公式招待いただいた背景には、本町南鹿野地区から移住された平岡千代照氏（故人）のご子息、平岡ルイス氏の奥さまである平岡八重子氏が現在の熊本県人会長であることと拝察します。

成田空港からアメリカ・ヒューストン空港を経由し、リマ空港に着くまで約21時間の空の旅に加えて14時間の時差がありますので、昼夜の逆転で疲れました。

翌日の午後、小野熊本県副知事一行と合流し、日秘協会会長をはじめ、熊本県人会役員を表敬訪問するとともに、ペルー

3日目は、サン・ホセ・デ・モンテリコ学校を視察しました。幼稚園・小学校・中学校・高等学校までの約1200人が在学する私立学校で、海外との交流にも尽力されており、県内の中・高校とも訪問交流をされています。

夕方、今回の訪問の目的である熊本県人ペルー移住115周年記念式典に参加しました。式典会場であるウアカプクラナは、5世紀に建設された面積15haのピラミッドの遺跡であり、そのような場所で式典が開催されたことに、訪問団一同驚きました。



▲熊本県人ペルー移住115周年記念式典

式典には、先日お会いした外務大臣夫妻、アジア大洋州局長夫妻ならびに在ペルー日本大使館・高木公使をはじめ、多くの外交官も出席され、私も氷川町を代表して、祝辞を述べさせて頂きました。大きな感動と日系移民の皆さまのペルーにおける貢献の大きさ、熊本県人会の皆さまの故郷を想う気持ちを痛感した素晴らしい記念式典でありました。

4日目は、ジャパンフェスティバルに参加しました。1週間に渡って日本各地の県人会や日系企業団体がブースを出展し、郷土料理などを紹介・販売されるお祭りで、当日は、最終日ということで各団体が神輿を出されましたので、私たちも神輿を担いで練り歩きました。

移民資料館を視察いたしました。

2日目は、外務省を訪問、ポポリシオ外務大臣夫妻ならびにエスカラ外務省アジア大洋州局長夫妻と会見後、一緒に世界遺産登録された旧市街を散策し、その後大統領府視察を兼ねて衛兵交代式を見学いたしました。



▶熊本県とペルーとの友好交流の発展を願いました。

また、平岡ルイス氏が経営されている家電量販店を視察しました。4店舗開業されており、従業員数は千人を超え、「MIRAY」と称する自社ブランドもあり、地域経済への貢献の大きさを感じました。



▲平岡ルイス氏が経営されている家電量販店を視察しました。

5日目は、平岡会長の別荘で、地元県人会の役員家族を招いての交流会に参加し、パチャマンカを食しました。パチャマンカはペルーの伝統的な調理法のひとつで、肉や根菜などの食材を焼石とともに土中に埋めて蒸し上げるもので、とても美味しく頂きました。



▲パチャニ大地、マンカ二鍋を意味し、大地の神様パチャママに捧げる儀式に根差すことから、食事には祭礼としての意味もあります。

一方、別荘はリマ市内の郊外の山岳地にありましたが、途中には、簡易な住居が建ち並ぶ、スラム街ともいえる地域があり、貧富の差が大きいことも垣間見ました。

なお、滞在期間中の移動については、地元警察のSPと白バイによる先導が付き、平岡会長の夫妻のお心遣いととも、そうしなければ予定どおりに目的地に到着できない交通渋滞がある現状も体験いたしました。

それぞれの海外訪問を通して、私たちの住む日本および氷川町がいかに安全で、暮らしやすい場所であるかということを感じました。

そのことに感謝し、今後さらに安全安心で住みよい氷川町をめざすとともに、故郷を離れて暮らす地元出身の皆さまが誇れる町を築いていかなければならないと決意を新たにす旅となりました。